

## 台湾大学大学院との第2回ジョイントゼミ

－TV会議システムを用いて－

森山 新（お茶の水女子大学大学院）

日時 2007年1月8日（火）11：20－13：10

場所 本学人間文化創成科学研究科棟5階SCS室

### 日程

11：20－11：40 研究発表1 「テレビゲームが日本語教育の課外教材としての位置づけ－RPGを中心とした語彙調査の中間発表－」 麻子軒（台湾大学大学院M1）

11：40－12：00 研究発表 「共感覚に基づく比喩表現について－「薄い」の多義性をめぐって－」 邱嫩婷（台湾大学大学院M2）

12：00－12：10 コメント、質疑応答

12：20－13：10 講演 「認知言語学的観点からの格助詞ヲ、ニ、デの意味構造とその習得－中国語を母語とする日本語学習者を中心として－」 森山 新（お茶の水女子大学大学院）

去る2007年1月8日、TV会議システムを用いて台湾大学大学院林立萍ゼミと本学大学院森山新ゼミとのジョイントゼミが開催された。まずは台湾大学院生2名の研究発表があり、そのあと林立萍先生のコメントや日本側からの質疑応答があった。

続いて後半は、本学側から「認知言語学的観点からの格助詞ヲ、ニ、デの意味構造とその習得－中国語を母語とする日本語学習者を中心として－」と題し、私が講演を行った。

これまでジョイントゼミは、本学教員、院生が海外に赴くか、海外から本学へ招待する形を取っていた。台湾大学とも2006年度に台湾大学にて日本文学をテーマに1回ジョイントゼミが開催されている。今回はジョイントゼミの日常化をめざし、初めてTV会議システムを用い、直接大学間を結んで開催された。

初めてということもあり、途中何度か接続が途切れることもあったが、無事時間内に全日程を終了した。台湾大学院生の研究は、非常にユニークなテーマであり、本学でこのような研究はさほど行われていなかっただけに、発想を広げてくれる発表であった。また日頃指導を受けることができない他大学の指導や講演に触れることも可能となり、今後このような授業が継続され定着していくことが望まれる。